

Wakayama University Tourism Update

Semiannual Newsletter of Tourism Education & Practice

WTU Spring/Summer 2020



Contents ー目次ー

1. Reports ー和歌山大学観光学部生の国際 / 地域活動報告ー
2. Topics ー過去のイベントとニュースー

■ Global Intensive Project (GIP) Global Learning Advanced

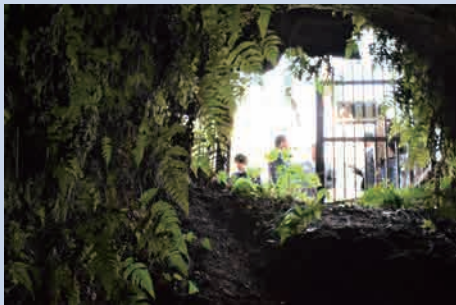
～ Dark Tourism Development in Japan – Theories & Practices (2017 ～ 2019)

岩安 良祐さん (10 期生、2020 年 3 月卒業 / 富山県立砺波高等学校出身)



農地のなかに住宅街が散在するごく普通の「田舎」。その風景の中に突如、幅 50m、全長 1 km ほどの荒れたコンクリート地帯が現れる。2018 年の晩秋、フィールドワークのため、およそ 1 年ぶりに訪れた。車を降りると冷たい風が体を突き刺す。抜けるような青空には旭日旗がはためいていた。

兵庫県加西市にある鶴野飛行場跡。戦時中に旧日本海軍のパイロットを養成する練習場として造成され、大戦末期には練習生による特攻隊が編成された。周囲には防空壕や弾薬庫などの跡が点在する。滑走路の近くには慰霊碑とプレハブ小屋のような資料館があり、資料館内では特攻隊員の遺書などが展示されている。加西市は「歴史・文化」の「観光スポット」として紹介、「戦争遺産」を巡るボランティアガイドの派遣も行っている。



「観光客は何を聞きたいの? 『悲劇』を聞きたいだけ?」「ダークツーリズムって何? 『ピースフルツーリズム』にしてほしい」「ただただ平和について考えてもらえたらうれしい」。この日、近くの公民館で資料館を運営する団体、ボランティアガイドを務める地域住民たちと意見交換を行った。ガイドの中でも考え方は様々なようだ。そもそも「ダークツーリズム」という言葉への違和感。地元の歴史を「悲劇」として消費されることの抵抗感。それでも伝えられる「平和」への思い。

ダークツーリズムの定義は「商品化された本物の死や災害の場への訪問を取り巻く諸現象」(Foley & Lennon, 1996) というのが有名だ。「観光」と聞くと、その地の魅力や美しいものを見たり消費したりすることを思い浮かべるだろう。しかし、実際はそれだけでない。人類の負の歴史を伝える広島や自然の脅威が多くの人命を奪った形跡を残す東北の震災遺構など、「悲しさ」を感じる場所への観光も存在する。そうした各地の「ダークツーリズムサイト」では、観光客の振る舞いに憤ったり地元の歴史と向きあって葛藤したりする住民や、前向きなメッセージを見出そうとする観光提供者たちがいる。



過酷な戦争や度重なる大災害を経験してきた日本には、ダークツーリズム研究の対象となる場所が全国各地に存在する。なかには、政治性を帯びる場所もある(靖国神社や東京電力廃炉資料館など)。しかし、過去の悲しい出来事を観光現象のなかでどのように表象していくかは、議論が不足している。

ダークツーリズムを学ぶことは、地域住民の心情、観光客の動機、自治体など提供側の思惑、倫理的な問題、政治的な問題などが複雑に絡み合う社会を読み解く一つの手がかりとなる。

■ Global Intensive Project (GIP) Global Learning Advanced

～ World Heritage & Pilgrimage Route – Camino de Santiago

スペインの世界遺産と聖地巡礼地における観光 (Santiago de Compostela, Spain)

南 裕賀さん (12 期生 / 和歌山県立新宮高等学校出身)

高山 佳穂さん (12 期生 / 近畿大学附属高等学校 (大阪府) 出身)

福美 裕子さん (13 期生 / 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校 (大阪府) 出身)



私たちは 3 月に行われたスペイン GIP に参加しました。今回、スペイン GIP での体験や学んだことについて報告させていただきます。

まず、スペイン GIP の概要について説明します。スペイン GIP とはスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラでスペインの観光事情や文化について学ぶプログラムです。サンティアゴ・デ・コンポステーラはスペインの北西部に位置しており、旧市街地全体が世界遺産となっています。サンティアゴ・デ・コンポステーラにも熊野古道のような世界遺産に認定された巡礼路があります。スペインの観光業に関係する施設や巡礼路などの視察はもちろん、語学学校にも通い、スペイン語について学んだほか、現地の学生達とプレゼンテーションのセッションも行いました。

渡航前には参加メンバーで集まって事前学習という形で現地について勉強はしていたのですが、やはり実際に目で見たり、説明を聞いたり、体験することで芸術の素晴らしさや料理の美味しさ、巡礼というものを一層魅力的に感じました。

特にスペイン料理については、どの料理も美味しく感動しました。フィニステレー岬に行った時には新鮮なホタテをガリシア風にアレンジしたものや、他にもガリシア州名物のタコをオリーブオイルで和えたものもあり、日本では食べたことのない味に舌鼓を打ちました。

また、今回のスペイン GIP はコロナウイルスの影響で一部の予定が変更になりました。前半は予定通り進んでいたのですが、後半の辺りから雲行きが怪しくなっていました。そのような状況でスペインが3月14日に非常事態宣言を出し、外出制限が設けられました。そのため、飲食店やお土産屋さんも閉まっていました。私たちが帰国を早めることとなりました。コロナウイルスは日本だけでなく、世界的に大きな影響を与えています。観光業が与える負の影響を痛感しました。

しかしそんな中でも現地ガイドの方が私たちの気持ちが悪くならないように楽しませてくれたり、後半急遽宿泊することになったホテルの方も美味しい料理を作ってくれたり、サンティアゴの人々の温かさに感動しました。

和歌山の熊野古道と関わり深く、美しい自然や歴史ある街並みを持ち、料理も美味しい、魅力が沢山詰まったスペインのサンティアゴ・デ・コンポステーラに行くことができるこの GIP に参加できて本当に良かったです。

最後になりましたが、ご指導いただいた堀田先生、サポートしていただいた観光実践教育サポートオフィスの柴本さん、ガリシア日本協会の塩澤さんにお礼申し上げます。本当にありがとうございました。



■「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」@インテックス大阪

高橋 優希さん (12 期生/岐阜県立関高等学校出身)

2019年10月24日～27日にインテックス大阪で開催された、世界最大級の旅の祭典「ツーリズム EXPO ジャパン 2019 大阪・関西」。関西圏で初めて開催されたこの祭典に本学部のサポートスタッフの一員として一般公開日一日目である26日(土)に参加させて頂きました。今回始めて「ツーリズム EXPO ジャパン」というコンテンツに関わることができ、「旅」をキーワードに多くの企業や国・地域、大学が一同に会するこの祭典の勢いに驚くと共に、観光という産業の盛り上がり胸が躍りました。

「世界最大級の旅の祭典」と銘を打っているように、インテックス大阪の広い敷地内に本当にたくさんのブースがひしめきあい、各国や各地域が自分たちの名産品や観光名所をPRしていました。前を通る人たちに声をかけ、フライヤーを渡し、話をする。彼らに次なる旅先に選んで貰えるように。まさに旅先の見本市のようでした。どう自分たちの国・地域を消費者の需要に沿って伝えるか、他地域との差別化をどう行うか、知って貰うだけでなく、訪れてもらうためにはどうしたらいいのか、この祭典に参加したことで様々なことを考えるきっかけになると共に、各国・各地域の戦略に触れることが出来た貴重な経験になりました。

当日は、「大学・アカデミーエリア」に出展されている本学部のブースで、足を止めて下さった方々に、GIP や LIP といった本学部の多様な取り組みについて自身の経験を元にお話させて頂きました。足を止めて下さった方々の中には、本学の近くに住んでいる方や本学のOB・OGの方もいらっしゃり、初めて本学部の取り組みを知ったという声や、取り組みが面白そうだという声、これからももっと頑張りたいという激励の声を頂きました。

本学部の学生として、私たちの活動は地域と共にあり、たくさんの人に支えられているということを改めて実感しました。加えて、推薦入試に挑戦する高校生の姿もあり、熱心な彼らと話をすることで、私自身の学びへの刺激となりました。彼らと新年度に大学で再会出来ることを楽しみにしています。また、本ブースで1番目を引くドームシアターについて興味を持たれる方も多く、詳細を知らなかったドームシアターについて知る機会となりました。

授業のため、企業日である10月24日、25日に参加することは出来ませんでした。企業日に参加することで、人で溢れる一般日とはまた違った関わりを出展者の方々と持つことが出来ると思ったため、来年は企業日にも参加したいと思います。

2020年東京オリンピックの開催が目前にせまった今、コロナウイルスによって大打撃をうけている観光業。各観光地、各企業がどう対応していくのか、このような時だからこそ学べることを学び、私たち学生が出来ることを模索して行きたいです。



■ 日本国際観光映像祭 - Japan World' s Tourism Film Festival- に参加して

海野 大地さん (12 期生 / 静岡県立掛川東高等学校出身)



観光映像というものを観たことがある方はどれだけいらっしゃるのでしょうか。名前だけならなんとなく、という方が多く、確信をもって観たことがあると答えられる方は案外少ないのではないのでしょうか。そんな観光映像を世界中から集めてグランプリを決めながら、これからの観光映像のあり方を考えるのが日本国際観光映像祭 (以下、「JWTFF」) です。そして、JWTFF を主催する日本国際観光映像祭実行委員会の代表を務めるのが、和歌山大学の木川剛志先生です。新型コロナウイルスが流行する厳しい環境の中、今回で二回目の開催となり、私は学生スタッフとして参加させていただきました。

さて、少し話は変わりますが、和歌山大学観光学部では様々な分野の勉強を観光という枠組みの中で学ぶことができるため、人それぞれ自分の学びたい内容を模索し、学ぶことができると思います。私が今回の JWTFF に参加させていただききっかけとなったのも、そうした特徴がある学部であったからです。多くの講義の中から木川先生の講義を選択し受講したときに、私は初めて観光映像というものを詳しく知り、さらに JWTFF のスタッフを募集していることも同時に知りました。そして、おもしろそうだという理由ですぐに応募しました。

JWTFF では、私は受付を担当させていただきました。参加者が会場にいらしたときに案内をしたり、記録をとったりしました。英語を使う機会も多々あり、さらに社会人の方と話すことがほとんどだったため、大学生活とは違う雰囲気を感じられました。また、私の他に参加していた学生スタッフはそれぞれ違う仕事を任されていました。その中でも通訳を担当していた学生は、苦労しながらも上手にこなしていて、とてもやりがいのある貴重な体験をしているなど見ていて思いました。

会場では、日本、海外を問わず多くの観光映像が上映され、著名な方々によるフォーラムも併せて行われました。日本と海外の観光映像の違いやどのような観光映像が良いものとされるかなどを、実際に観たり聞いたりしながら学ぶことができました。就職や将来のことを考えるうえで、そうした意見を聞くことができたこと、観光映像を詳しく知れたこと、そして学生スタッフとして仕事をさせていただいたこと、そのすべてが私にとって有意義な経験となりました。何かに挑戦しながら、観光に関するいろんなことを学びたいという人は、来年以降ぜひ参加してみてください。

■ PATA 和歌山大学学生支部 活動報告 2019

菟谷 諒真さん (11 期生、PATA 和歌山大学学生支部 2019 年度代表 / 和歌山県立星林高等学校出身)



PATA 和歌山大学学生支部では学生が主体となり、観光について論理的、実践的に学んでいます。基本的な活動としては、毎週の会議を行っています。会議では、観光に関するトピックについての勉強会などを行っています。「自分の枠を超えた学びにより、自由で豊かな発想を」という理念のもと幅広い分野から観光についての知識を養っています。その他に企業訪問やコンペへの参加など幅広く活動を行っています。

2019 年 5 月には前年度に引き続き、今年はフィリピンのセブ島で行われた PATA Annual Summit (PAS) に参加しました。PAS では世界中の学生支部のメンバーや観光業を牽引する企業の方々と交流することができます。今年は「Progress with Purpose」というテーマの下、観光に関する幅広い分野に関するセミナーやパネルディスカッションが、授業では聞けないような最先端の観光業界の話聞くことができました。

12 月には現在 Peach Aviation で働かれている本学部の卒業生の方を講師としてお招きし、セミナーを開催しました。空飛ぶ電車をコンセプトにサービスを提供しているそうです。旅行をもっと気軽なものにするため、航空会社でありながら tabinoco (タビノコ) という Instagram のようなシステムも運営しています。空港だけでなく旅行全体をサポートし、顧客満足度をさらに高めることで利用者を増加させることができるのだろうと感じました。

2020 年 2 月にはタイ国政府観光庁大阪オフィスに訪問させていただきました。タイ国政府観光庁はイベントでのブース出展や SNS での発信によりタイへのアウトバウンドを促進させています。商品のリピーターを作ることが大事だとよく言われますが、タイに関しては文化が違いすぎる・発展が遅れた国だというイメージを持っている人も多くいるようで、そういった人たちをどうやってタイに連れていくか課題だと仰っていました。そこで、私たちもタイへのツアープランを考えました。私たちの考えに対してフィードバックを頂くことができ、とても有意義な話し合いとなりました。

2019年度の活動について紹介しましたが、今年度からは活動の方向性が大きく変わり、より知識を深め実践的なプログラムに取り組みとうと模索中です。PATA 学生支部に興味を持ってくださった方は、Facebook (<https://www.facebook.com/pata.wusc/> (右記 QR コード)) より、詳しい活動などをご覧ください。



■ 市駅「グリーングリーン」プロジェクト 2019 市駅とまちと紀の川の可能性を体感する社会実験 シエキノカワでピクニック。(和歌山県和歌山市)

豊田 さゆりさん (11 期生/三重県立伊勢高等学校出身)

「市駅「グリーングリーン」プロジェクト (以降、市駅 GGP)」とは、2015 年から和歌山大学観光学部永瀬研究室と和歌山市駅 (以降、市駅) 前の商店街・自治会が中心となって取り組む、公共空間の可能性を体感してもらう社会実験です。「グリーングリーン」は「市駅周辺の魅力を拾い集める：GLEAN」と「芝生で緑の潤いを生み出す：GREEN」を掛け合わせ、緑あふれる人と環境にやさしいまちづくりを目指すことをコンセプトにしています。2017 年までは市駅前通りを歩行者天国化し、「緑と憩いの広場」にする社会実験、2018 年からは市駅北側を流れる紀の川に着目し、河川敷の活用による潤いと賑わいづくりの可能性を検証してきました。

2019 年度は、昨年のテーマを引き継ぎ約 5 か月間の準備を行い、10 月 22 日に 2 年目となる「市駅とまちと紀の川の可能性を体感する社会実験 シエキノカワでピクニック。」を実施しました。昨年度は、メイン企画の「ピクニック」を体験した実感が乏しい来場者が多かったことが、アンケートから分かりました。そこで①河川敷でのピクニックを存分に楽しんでもらうこと②若い世代にも興味を持ってもらうことを重視し、新たにティピーテントやガーランド、共通のサインやゲートの設置など、おしゃれで統一感のある雰囲気づくりを行いました。また、昨年度より会場面積を広げ、新たなエリアを設けたり、飲食の出店数を増やしたり、アクティビティでは新たにスラックライン体験を実施するなどコンテンツの充実を力を入れました。河川敷でのピクニックを楽しんで、少しでも河川敷の魅力を感じてもらえるように、何度も企画の提案・検討を行いました。

私は全体の企画を進めながら、広報と音楽ステージを主に担当しました。広報活動はまずこの社会実験を知ってもらうという点で重要な役割を担っています。そこで今年は若い世代をターゲットとしていることから、SNSでの広報に力を入れました。その結果、SNSを見て足を運んでくださった方が増えたことがアンケートから分かりました。台風の影響で前日まで雨が降り続きましたが、当日は晴れ間が広がり、県内外から 600 人以上の方々にご来場いただくことができました。

市駅 GGP を通して、実際に地域の方と関わりひとつのプロジェクトを進める難しさを学ぶことができました。また、準備を進める中で、市駅前の活性化に対する地域の方の想いを聞ける貴重な機会となりました。2020 年 4 月には市駅前の再開発が完成し、このプロジェクトも新たな段階を検討する時期ではないかと思っています。今後とも市駅周辺のまちが持つ可能性に期待したいです。

今回、和歌山市内の飲食店、大学関係者をはじめ沢山の方にご協力いただき、社会実験を実施することができました。ありがとうございました。



■ 地域インターンシッププログラム Local Internship Program (LIP)

「ねんりんピック紀の国わかやま 2019」における、観光ツアー同行を通じた観光業務の実践 (和歌山県) 荒木 拓海さん (11 期生/兵庫県立明石城西高等学校出身)

私たちは、2019 年 11 月 9 日 (土) ~ 12 日 (火) に和歌山県全域を会場として開催された、「第 32 回全国健康福祉祭和歌山大会~ねんりんピック紀の国わかやま 2019~」の参加選手の方々を対象としたツアープランの作成、帯同を行いました。この LIP 活動は 2 年間行われ、和歌山県ねんりんピック推進課の皆様、JTB、日本旅行のご担当者の方々にサポートしていただきながら活動を進めてきました。この活動を通して、全国各地からの参加者に和歌山県の魅力を発信することを目的とし、1 年目はツアーの作成、2 年目はツアーの帯同に向けて準備を進めました。

(次ページへつづく)





「募集型企画旅行」について旅行会社の方に講義していただき、それらをいかして、夏休みに下見を行いました。ねりんピックの選手の皆様の年齢（60歳以上）を考慮し、歩くことが困難である場所の確認や、その場合の対応を考え、ツアープランの作成に結びました。下見後はツアープランの提案に取り組み、紀北、紀中、紀南の3グループに分かれてそれぞれ提案を行いました。最終的に、紀北3案、紀南1案（宿泊）の計4プランがパンフレットに和歌山大学生提案プランとして掲載されました。

2年目は大学から近い紀北2プランの帯同に向け、準備を進めました。観光地に関する情報をグループで改めて学び直すとともに、それらの知識を参加者の方にお伝えできるように実際のプラン通りに下見も行いました。

迎えたツアー当日は2グループに分かれ、和歌山市内の歴史的建造物（和歌山城、養翠園、湊御殿、紀三井寺）を見学するツアー、世界遺産の紀伊山地の霊場と参詣道（慈尊院、丹生都比売神社、高野山金剛峯寺など）を巡るツアーに帯同しました。

私は高野山などを巡るツアーに帯同しました。このツアーは語り部ガイドさんが主となる中で、観光地の説明よりもツアー参加者の方楽しんでもらうことを重視して取り組みました。また、足が不自由な方が傾斜を登ることを諦めた場面では、メンバーの1人がその方に付きっきりで対応するなど、周りを見て参加者の方のために行動することができました。ツアーの帰りのバスの車内では、参加者の方がされているスポーツについてや出身地のお話などで盛り上がり、記念品をいただくなど年齢を超えて交流を深めることができました。

自分たちが作ったプランを実際に催行していただき、またそれに帯同させていただくという貴重な経験を得ることができました。参加者の方からは、事後のアンケートなど含め色々なフィードバックをいただきました。このツアーを通じて和歌山の魅力を感じていただき、目的であった魅力の発信を実践することができました。

2年間の活動を通して学んだことは、大きく2つあり、1つ目は和歌山大学の観光学部生として地域に価値貢献をするという意識の大切さ、2つ目は目的を見失わず活動することの大切さです。この2つはどの活動においても共通する部分かと思います。せっかく活動するからには、高い目標を掲げ、成果を追い求めて活動することが必要だと学びました。

■ 地域インターンシッププログラム Local Internship Program (LIP)

「地区 × 学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生」(和歌山県海草郡紀美野町)

勝木 莉奈さん (12期生/長崎県立佐世保高等学校出身)



私たちは、和歌山県海草郡紀美野町小川地区で、地域インターンシッププログラム (LIP) を行っています。現在発足2年目であり、小川の郷づくり会の皆様、紀美野町まちづくり課の皆様のご協力のもと「地区 × 学生による観光・文化・交流情報発信と棚田の再生」をテーマに地域とのかかわりを学んでいます。

活動内容の例として、今年度の主な活動を紹介します。今年度の主な活動は、小川のまちあるき、生石山登山・古民家『風の森』宿泊体験、小川の郷冬まつりの企画・運営、SNSアカウントによる情報発信です。まず、小川のまちあるきについてですが、私たちが紀美野町小川地区について知り、地域での活動を円滑に進めるために、実際に地域を自分たちの目で見て感じたいという思いからまちあるきを実施しました。自宅で山椒を栽培されている方のご協力により、特産品である山椒の山椒摘み体験をしたり、登山道でカフェを経営されている方にお話を聞いたりして、地域への理解を深めました。次に、生石山登山・古民家『風の森』宿泊体験では、小川地区最大の魅力「生石高原」へ往復5時間かけて登山し、小川の郷づくり会の皆様で運営されている古民家『風の森』に実際に宿泊しました。そして、小川の郷冬まつり企画・運営では、小学校校舎に飾り付けられるイルミネーションの取り付けや焼き鳥の販売だけでなく、演芸会の司会進行やミニゲームイベントを企画・運営し、町内に配布するチラシのデザインを作成するなど大きな役割を任せて頂き、イベント企画・運営の難しさ、やりがいだけでなく、そのノウハウを実践的に学び得ることができました。また、今年度から Facebook・Twitter・Instagramでの情報発信を開始しています。現在は主に小川LIPの活動内容を投稿していますが、今後は小川地区の魅力発信も投稿していきたいと考えています。その他にも、小学校の運動会や秋まつり、登山道清掃活動などの地域のイベントに参加したり、情報共有を密にし、各活動のフィードバックをするために各週会議を実施しています。

最後に、私たちは、地域の方々の思いに寄り添い、私たちにできることを常に模索しながら活動しています。そのため、地域のイベントを除き、固定された活動はありません。地域住民の方々と一緒に、私たちに何ができるのか、それを学ぶために、知るために私たちに今どんな活動が必要か、地域の方々の笑顔や喜びが一番だということを忘れずに、地域とかかわっていくことを常に目標としています。この目標は今後も変わることなく、受け継がれていくと信じています。



紀美野町小川地区は、豊かな緑に囲まれ、澄み渡るおいしい空気があります。そして、透き通るような川の水、秋には生石高原、ススキの銀世界、満天の星が夜空を彩る素敵なまちです。大好きな紀美野町小川地区で、頼れる仲間たちと一緒に、これからも地域貢献活動を展開していきたいと考えています。

■ 地域インターンシッププログラム Local Internship Program (LIP) 「箕島の魅力発信」(和歌山県有田市) 深江 芽衣さん(12期生/大阪府立大手前高等学校出身)

有田市 LIP は 2019 年度で 4 年目となる LIP です。少数メンバーで有田市の箕島地区をメインに活動していました。私はここに 1 回生の時から所属しています。今年度は取り組み方を大きく変えた年になりました。私が 1 回生の頃は、子供たちに自分の地域のことを好きになってもらうことは、将来箕島から出て行ってしまふ若者を減らすことにもつながると考えていたことから、子供たちへのワークショップを企画し、社協の方々の協力の元その企画を成功させることが大きな目標となっていました。しかし、これでは自分たちのやりたいことや考えを押し付けてしまっているだけで地域が本当に求めていることなのかがわからないという反省点が生まれました。また、1 回の企画だけだったので箕島を訪れる機会も少なく、自分たちが箕島についてあまりよくわかっていないということに気が付きました。

そこで今年度は「多世代交流を通して見つけた箕島の魅力を発信」という目標をたて、現在箕島で行われている活動を社協の方々に教えていただくところからスタートしました。その中で私たちはワンハートという団体に出会いました。ワンハートは箕島地区の 3 つの商店街の方々が集まり、箕島地区を盛り上げるために昨年度から活動を始めた団体です。これは町おこしという点で、観光学部としてかかわることの出来るものと感じ、ワンハートに参加すること、子供たちへのワークショップ企画を引き継いだ 2 つを軸として活動を行うこととしました。ワンハートでは、企画の段階の会議から参加をし、夏祭りや駅前のイルミネーションを行い、自分たちの企画では、有田市の特産品についてのワークショップを行った後に子供たちと一緒にそれら特産品を使ってお弁当を作るといったものを実施しました。ワンハートの会議では、みんなが知り合いだからこそそのハイスピードな会議のテンポや、はきはきとした物言いに圧倒されながらも、経費や自治体への許可など学生にはあまり馴染みのない部分のお話も聞くことができました。その中で地域には活動に賛成の人も反対の人もおり、動こうと思ってもすぐに動けるほど甘くないことを学びました。このような取り組みは私たちに地域の方との触れ合いを増やしてくれたほか、地域の方々に和歌山大学生がこの地域に来ているということを認知していただくこともできました。また、自分たちの企画ではワンハートの方々にたくさん協力していただき、同時に大学生の皆さんにもぜひ参加してほしい、手伝ってほしいと言ってもらえることも増えました。小さな地区だからこそそのつながりがあり、知らない人がいるとあれは誰だろうと思われるような絆の深い場所で、少しでも存在を認知していただけることはとてもうれしく大切なことだと実感しました。

LIP のよいところは、私たち自身が考えて企画し、企画が終わったあともしっかりと反省点を話し合い、組み立て直す経験をすることができるということと考えています。なにを学び、なにを生み出したかを考えることで課題を発見し解決していく力を身につけることができました。今回の活動のなかでも反省点は多くあげられましたし、今年度から開始された LIP の合同報告会では他の学生の取り組みも知ることができ、新たな改善点や自分達の LIP の良さに気づいたりもしました。来年度もそれらをもとに話し合い、地域のみなさんと一緒に活動できる LIP を作っていきたいと思っています。



Topics ー過去のイベントとニュースー

■ シリーズ企画展「わかやま × 観光展」がはじまりました！

和歌山大学観光学部では、県内各市町村と和歌山で学ぶ学生たちとの接点となる場、より和歌山を知る場として、各市町村が有する産業・文化・人材など多彩な観光資源を展示するシリーズ企画展「わかやま × 観光展」を、2019 年度より開催しています(6,7,10,11,12 月に開催)。

西 4 号館多目的スペースでの約 1 ヶ月間のパネル等の展示と、期間中 1 回以上の交流イベントを開催するこの企画展を通じて、地域の魅力を発信・共有したいと考えています。

第 1 回は「過去・現在・未来くじらに関わり続ける町 太地」(2019 年 10 月 1 日(火)～10 月 31 日(木))。400 年以上前からくじらと関わり続け、時代とともにくじらとの関わり方も変化していくと考え、くじらとの関わり方を見据えたまちづくりの実践をパネルと映像で紹介

(次ページへつづく)



するとともに、10月7日（月）には、和田正希氏（太地町役場総務課）を講師に、セミナー「過去・現在・未来くじらに関わり続ける町 太地」を開催しました。

第2回は「すべてが大切なワンピース これからもずっとみなべ町」（2019年11月1日（金）～11月29日（金））。2015年12月に世界農業遺産に認定された「みなべ・田辺の梅システム」をはじめ、UME-1 フェスタ in 梅の里みなべ、グルメ甲子園・やにこい種とばし、南高梅、梅料理、紀州備長炭、南部梅林などなど、みなべ町の観光資源満載のポスター・パネル・パンフレット展示や映像展示で紹介。11月26日（火）には、セミナー&ワークショップを開催し、世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」に関する講話と、梅ジュースづくり体験と梅の種とばし大会を行いました。



第3回は「新宮市の魅力発信展」（2019年12月13日（金）～2020年1月16日（木））。海・山・川に囲まれた世界遺産のある新宮市の観光と文化や、新宮市魅力発信女子部（市内在住・在勤の女性で女性目線での新宮市の魅力発信を目的に活動中）推薦の「地域で活躍する女性」の紹介、「新宮市魅力発信フォトツアー」写真展とともに、2020年1月9日（木）16時30分からは、交流イベントとして、ワークショップを開催し、新宮を代表する郷土料理「めはり寿司」を新宮市魅力発信女子部メンバーと一緒に作りました。

いずれも各市町の魅力をふんだんに味わえる企画展となりました。2020年度も引き続き実施予定です。どの市町村が登場するのか、どうぞ楽しみに！



- ➔ 「過去・現在・未来くじらに関わり続ける町 太地」
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019092400023/>
- ➔ 「すべてが大切なワンピース これからもずっとみなべ町」
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019102900048/>
- ➔ 「新宮市の魅力発信展」
<https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019111500031/>

■「2019年度観光カリスマ講座」「地域活性化システム論 2019」を開催しました！



2019年10月から12月にかけて「2019年度観光カリスマ講座」を和歌山県との共催で実施しました。同講座では、各方面で活躍する「観光カリスマ」や成功モデルと評価されている観光地・観光ビジネスのキーパーソンを講師として招聘しています。12年目となった今年度は、全4回延べ359名が受講しました。和歌山県をはじめとする地域の観光振興とまちづくり再生を探る良い機会となりました。

また、2019年11月16日（土）、同じく和歌山大学キャンパスにて開催した「地域活性化システム論 2019」では、本学教員4名による「地域のマーケティング」「サステナブルツーリズム」「地域ブランドデザイン」「星空観光とまちづくり」と題した講義を行いました。学生、一般受講

者144名が受講し、「観光を通じた地域再生モデル」を鍵概念に観光戦略と観光企画の両輪から捉える地域活性化の可能性を考えました。

各講座のプログラムなど詳細は下記URLをご参照ください。

- ➔ 観光カリスマ講座 <https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019090200021/>
- ➔ 地域活性化システム論 <https://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/news/2019090200038/>

■「2019年度LIP合同活動報告会」を実施しました！



2020年2月8日（土）、地域インターンシップ（LIP）の2019年度の一年間の取り組みを広く共有するため、また、学生が活動を振り返り自身の学びと今後の活動のブラッシュアップを図るために、「LIP合同活動報告会」を開催しました。

すべてのプログラムが一堂に会して、報告会を実施するのは初めてでしたが、各プログラムの学生リーダーが企画・運営をし、当日はプログラム参加学生や担当教員、自治体・地域の方々など171名に参加いただきました。プログラム間で情報共有するとともに、ネットワーキングを行ったことで、今後の活動がより発展していくことを期待しています。

編集・発行

(2020年4月発行)

和歌山大学 観光学部 観光実践教育サポートオフィス

〒640-8510 和歌山市柴谷930 和歌山大学西4号館 K216室、K116室

TEL 073-457-8553 / E-mail tourism-er@ml.wakayama-u.ac.jp / URL <http://www.wakayama-u.ac.jp/tourism/>